

A機屋の社長のこと

私の生業は織物やニット用の糸の卸業です。米沢産地は昔からの繊維産業の町として以前は基幹産業として牽引してまいりました。でも現在は国内外の情勢で産地も縮小傾向が続いております。そういった中、産地の為に日々奮闘している弊社のお取引先のA機屋さんがいます。その機屋さんは絹の高密度広巾織物(女性用服地)では右に出る者はいないと言われるほどの優れた生地メーカーとなります。

日本でも唯一のメーカーで世界のメゾンブランドにも生地を収めるほどです。よって、問屋やアパレルからの注文が絶えず入っており、受注オーバー分は断るケースが多々あります。問屋、アパレルもA機屋がだめならば他の機屋に注文を振りますが、難しい織物だけにキズ発生のリスクが高い為、弱腰で受けてくれません。せっかく産地に入った注文が織りきれないのは、産地の為にももったいないと思いはじめたA機屋の社長は、何とか他社にノウハウを教えてでも製織できないか考えます。そこで、自社のノウハウを惜しげもなく他社に教え試験をはじめます。織物とは、同じ織機や同じ糸を使用したとしてもキズなく完璧な生地が出来るとはかぎりませんので、そこで現場の糸の管理や製織する人の手で変わる事を教えました。社長が他社の現場に出向き指導し、又、他社の人を自社の工場に来てもらい指導されたと言います。一昔前までは同業他社の人を自社の現場に入れるなど考えられませんでした。結果は、時間が掛かったものの無事に製織できたと言われました。

今回の事例で産地が良い方向へ進むことは間違いないと思いました。社長は、縮小して行く米沢産地を少しでも元気になるようにととった行動でした。A社長は現在40代と若く、まだまだ織物製作には前向きで、産地の良いリーダーになるに違いありません。彼の父親でもあるA機屋の会長は実は市内の某ロータリークラブのチャーターメンバーで初代会長を務めた方で、現在もロータリアンとしてご活躍されております。おそらくA機屋の社長も将来はロータリークラブに入会し素晴らしいロータリアンになる事と思えます。